

## 適切ないじめ対応のためのチェックリスト

- いじめられている子どもの心情に寄り添って、いじめを認知しようとしている。
- いじめアンケート等から明らかになったいじめに関する情報を把握している。
- 自校でいじめの防止等のため行っている校内研修やO J T等の内容を日常の指導に生かしている。
- 日頃から管理職や同僚と報告・連絡・相談ができる関係を築いている。
- 子どもの気になる様子を見聞きしたら、小さなことでも学年職員や管理職等に報告している。
- 少しでもいじめが疑われたら、校内いじめ対応チームに報告している。
- いじめアンケートの回答はその日のうちに確認し、他の教職員と情報共有している。
- 子どもに対して、いじめは絶対に許せない行為であることを、各教科、道徳科、特別活動等を通して、計画的に指導している。
- 子どもに対して、いじめなどの行為を見聞きした場合には、見て見ぬふりをせず、必ず教職員に伝えるよう指導している。
- いじめにつながるような行為を見聞きしたときは、そのとき、その場で指導している。
- いじめが疑われたら、即日対応を心がけている。
- いじめられた子どもの保護者に対しては、家庭訪問等で支援している。
- いじめた子どもの課題等を捉え、長期的視野をもって指導している。
- 子どもや保護者に対して、授業、保護者会、学級通信などの多様な機会を活用し、いじめ防止のための取組を伝えている。